



常勤医師2名(清原浩樹医師・岩永素太郎医師)・非常勤医師1名、診療放射線技師5名、看護師3名、事務2名のチームでがん医療に取り組む。

リアルタイムの位置照合で 動く腫瘍も的確に捉える

がん診療連携拠点病院として地域のがん医療を牽引する前橋赤十字病院。新病院開院を機にサイバーナイフを導入し、放射線治療の幅を広げた。患者さんにベストな選択肢を提供したいという清原浩樹医師に話を聞いた。



放射線治療科 部長

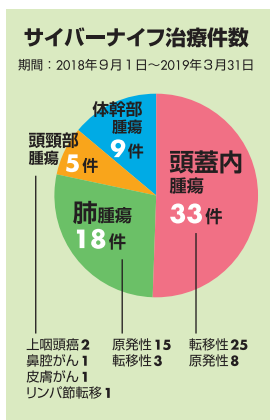
清原 浩樹
Kiyohara Hiroki

2000年旭川医科大学卒業。
群馬大学医学部附属病院等を経て
2017年より現職。医学博士。日本
放射線腫瘍学会放射線治療専門医。

短い治療期間で 高い局所効果が期待できる

前橋赤十字病院は、群馬県内で初めてサイバーナイフシステムを導入した。2018年9月に稼働を開始し、頭蓋内腫瘍、頭頸部腫瘍と肺腫瘍を中心に実績を伸ばしている。放射線治療科部長の清原浩樹医師は導入の理由を、「当院における放射線治療の適応範囲を拡大し、地域のがん患者さんの利便性を向上させるためです」と話す。

サイバーナイフは、小型直線加速器搭載のロボットアームが自在に動き、任意の方向からX線ビームを照射して腫瘍を狙い撃つのが特長だ。「複雑な形状の腫瘍でも、周辺の正常組織・臓器を避けて照射できるため、



1回線量を高く設定することが可能です。その結果、短い治療期間で腫瘍に対する高い治療効果を生み出すことができます。また、呼吸性移動を予測しながらリアルタイムで腫瘍を追尾するシステムが搭載されているため、患者さんや腫瘍の動きに合わせた的確な治療ができます。

通常のリニアックで6〜7週間かけて行う通常分割照射に比べて、サイバーナイフは1〜10回と分割数の少ない定位放射線治療が可能のため、患者さんの負担も軽減できる。



放射線治療終了時に患者さんが鳴らす「希望の鐘」。

「部位により異なりますが、照射時間は1回20〜60分と長いものの、セッティングが容易でスムーズに治療を進めることができます。また、治療計画も立てやすいので、より効率的に定位放射線治療を実施できるようになりました」と、使い勝手のよさでも清原医師はサイバーナイフを高く評価している。

早期社会復帰が望めるなど 患者さんに多くのメリット



前橋赤十字病院

〒371-0811 群馬県前橋市朝倉町389番地1
TEL.027-265-3333 FAX.027-225-5250
https://www.maebashi.jrc.or.jp/

「私が放射線腫瘍医を志したのは、がんの患者さんに最初から最後まで寄り添えると考えたからです。放射線治療には大きな可能性があります。なかでもサイバーナイフは局所効果が高く、重篤な有害事象が少なく早期に社会復帰できると実感しています」

患者さんにベストの治療を提供し、地域医療に貢献する——その強い気持ちで清原医師らを動かしている。

サイバーナイフ導入後は紹介患者が増え、群馬大学医学部附属病院など県内はもとより、埼玉や長野在住の県外からの患者さんも増えつつある。

「今後は前立腺癌や肝腫瘍など体幹部腫瘍の治療にも積極的に取り組んでいくつもりです」